

令和 6 年 5 月 2 日現在

機関番号：13301

研究種目：挑戦的研究(萌芽)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K18425

研究課題名(和文) Covid-19の下でのSCの変化が高齢者医療・介護に及ぼす影響に関する調査分析

研究課題名(英文) Analysis on the impact of changes in SC under Covid-19 on medical and nursing care for the elderly

研究代表者

武田 公子(Takeda, Kimiko)

金沢大学・経済学経営学系・教授

研究者番号：80212025

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,900,000円

研究成果の概要(和文)：我々の共同研究が石川県羽咋市で2019年に実施した住民アンケートでは、健康意識とSCの関係を明らかにした。このアンケートを基に、2021年には追跡的なアンケートを行い、コロナ禍前後の人々の行動変容を捉えることができた。また、回答者の同意の下で、同市より継続的に提供を受けている匿名化KDBデータ(主として後期高齢者医療と介護保険の月次データおよび健診データ)とこのアンケートとを突合せ、コロナ禍による行動変容と健康との関係を分析した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

Covid-19が人々の生活や行動に大きな影響をもたらしたことは直感的には理解されているが、我々の研究の意義は、特に高齢者に着目して、この行動変容を具体的に明らかにし、匿名化医療・介護データと照合することで、この行動変容の健康への影響に関するエビデンスを提供しえたことにある。当研究は、コロナ禍直前に実施していた住民アンケートを活用できた点に利点があり、回答者への追跡調査を行うことができたこと、またその間の健康状態を、データ突合に同意を得た上で、後期高齢者医療・介護保険の月次匿名化データと照合して捉えることができた点に意義がある。

研究成果の概要(英文)：Our survey of residents conducted in 2019 in Hakui City, Ishikawa Prefecture revealed the relationship between health awareness and SC. Based on this survey, we conducted a follow-up survey in 2021 and were able to capture changes in people's behavior before and after the coronavirus pandemic. In addition, with the consent of the respondents, we compared this questionnaire with anonymized KDB data (mainly monthly data on medical care and long-term care insurance for the elderly and health checkup data) that is continuously provided by the city. We analyzed the relationship between behavioral changes due to the coronavirus pandemic and health.

研究分野：地方財政論

キーワード：Covid-19 ソーシャルキャピタル KDBデータ 後期高齢者医療 介護保険

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

当研究を開始したのは、Covid-19 の感染拡大の最中であった。この感染症が人々の行動を抑制することは直観的に知られることだったが、特に高齢者の場合には行動や社会生活にどのような変化をもたらし、それが日常生活動作 (ADL) や健康状態に具体的にどのような影響をもたらしているかに関するエビデンスは得られていない状況にあった。

その一方、我々の共同研究は、コロナ禍に先立つ数年前から、石川県羽咋市からの医療・介護データ (国民健康保険、後期高齢者医療、介護保険の個別月次データ) の提供を受け、様々な角度から高齢者の健康状態の計量的分析を進めてきていた。また、2019 年には、ソーシャルキャピタル (社会関係資本、以下 SC) に着目した住民アンケートを実施していた。このアンケートは、地域における人々の交流や信頼関係等と、健康維持・介護予防効果の関係を明らかにする目的で実施されていた。このアンケートへの回答者への追跡調査を行うことで、コロナ前後の人々の行動変容と健康状態の変化等を比較検証することができるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

SC が健康や ADL に及ぼす影響については、医療・保健分野ですでに多くの研究成果が明らかにしている。本研究は、COVID-19 の感染拡大の下で、対人的接触や移動等の日常生活や SC にどのような変容をもたらしたか、またこの変容が人々の健康状態や ADL にどのような影響をもたらしているのかを明らかにし、その結果として後期高齢者医療や介護保険における費用にどう響いたのかを分析することであった。本研究を含む我々の共同研究ではこれまで、対象自治体との協定に基づき医療・介護の匿名化パネルデータ分析および全市民的なアンケート調査を実施してきた。この実績を活かしつつ、アンケート回答者に追跡調査を行うとともに、最新のパネルデータ提供を受けることによって、受療行動の変化、要介護度の変化、および医療・介護費用の変化をも捉えることが本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究が活用したデータ・情報は以下のものである。

後期高齢者医療および介護保険の月次データ。石川県羽咋市との連携協定によって 2012 年度分より継続的に提供された月次データを、同市において匿名化作業を行った上で提供して頂き、パネルデータとして活用することができた。

2019 年に羽咋市の協力を得て実施した 40 歳以上の全市民を対象としたアンケート調査。生活習慣や健康に関する意識、SC に関する設問に限らず、災害時の行動まで盛り込んだ大部のアンケートであったが、6,578 件もの回答を得ることができた (回収率 43.9%)。

の回答者に対する追跡的アンケート調査を 2021 年 11 月に実施した。回答数は 3,992 (回収率 79.8%) であり、データ連結に同意した回答は 2,595 件 (同意率 74.1%) であった。

上記の他、羽咋市役所とは密接に連絡をとり、保健福祉課職員や保険師等と複数回の意見交換や、実践的な活動・学習会、羽咋市役所における成果報告会の開催等を行った。

上記のデータ・情報を活用し、本研究の研究分担者はそれぞれの専門的知見・研究関心から問題の焦点化や分析を進めていった。

4. 研究成果

アンケートは 40 歳以上を対象としたが、データとの連結は後期高齢者医療と介護保険という事情のため、高齢者に関しては 75 歳以上、全体動向については 40 歳以上という区分で分析を行った。本研究を通じて得られた成果は下記の諸点である。

(1) SC と住民の健康

2019 年アンケートの分析では、地区単位の SC (一般的信頼、規範、参加) と健康の自己評価との関係を分析した結果、参加度の高い地区において健康自己評価が相対的に良好であることが明らかにされていた。このアンケートでの「参加」としては、地域の祭り、集会所や生活道

週複数回外出比率

アンケート実施年	全回答		75歳以上連結同意分	
	2019年	2021年	2019年	2021年
回答総数	6,359	3,992	649	
仕事 (就労)	47.3	46.4	15.9	14.5
自給的農業 (畑など)	24.1	24.3	39.4	36.1
近所の人や友人と会う	34.6	28.2	51.0	42.2
公民館行事など近隣の集会	5.8	3.2	11.4	5.9
買い物	60.9	59.0	57.0	51.5
病院 (医院) 受診	3.4	2.2	4.8	2.8

地域活動への積極参加比率

アンケート実施年	全回答		21年「実施なし」比率 (%)	75歳以上連結同意分	
	2019	2021		2019	2021
回答総数	6,359	3,992	3,992	649	649
地域のお祭り	54.0	13.4	70.5	53.5	16.6
地域の集会場や道路愛護活動	58.3	44.4	20.2	64.9	43.9
町会・自治体の会合	46.3	31.7	30.1	52.7	32.2

(注) 「必ず参加」「できるだけ参加」の有効回答に対する比率。

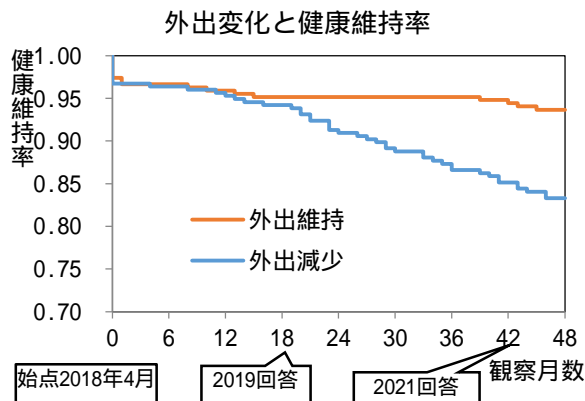
路の清掃、町内会の会合等を設定しており、21年アンケートでも同様の項目について参加動向を問うた。それによると、コロナ禍で地域の祭りは7割、清掃活動は2割、町会等の会合は3割で「実施なし」となり、各行事への参加機会は激減した。

(2) コロナ禍の下での高齢者の行動変容

21年のアンケート調査では、全回答に比べて高齢者（75歳以上）に目立った傾向として以下の点が観察された。外出については、近所の人や友人と会う機会は高齢者においては2019年アンケートでも多かったが、21年アンケートでは2割程度の減少があった。また買い物や通院のための外出は全回答に比べて高齢者では減少度合いが大きかった。行動や外出の制限に対する不満・ストレスは高齢者では相対的に低かった一方、孤立・孤独感や、自身・家族への健康不安感が有意に高かった。孤立・孤独感に関しては、「家族で過ごす時間が増えた」という回答が高齢者では有意に低く、別居する親族との交流が減少したことがその一因ではないかと考えられる。

(3) 外出抑制と健康維持

19、21年のアンケートの間で、外出頻度に関する回答の変化によって三群に分け、要支援以上の認定を受けず4週間以上の入院のない（＝健康維持）人の割合の変化を、 Kaplan-Meier法により右図に示した。コロナ禍で外出頻度を減少させなかった群では外出を控えた群に比べて健康維持率が高いことがわかった。



(4) 農作業の効果

アンケートでは目的ごとの外出頻度を問うた。友人・知人に会うための外出や、地域の会合や行事のための外出は顕著に減少しており、通院頻度にも減少がみられた。地域サロンなどは、介護予防事業としても位置付けられるが、こうした場の開催や参加が顕著に減少することによって、フレイルや認知症のリスクが高まることが懸念される。

その一方で、農作業等を目的とした外出には減少傾向はみられなかった。ただしこれには地域差があり、市街地の地区と中山間地区とでは明らかに異なる。対人交流が制約されるなかで農作業は体を動かす重要な機会となっていたことがわかる。

(5) 高齢者の体重減少

コロナ禍前後の体重変化については、非高齢層では体重が増加した回答が多かったのに対し、高齢者では体重が減少したとの回答が有意に多かった。このことはアンケートのみならず検診データからも検証されている。また、食生活上では野菜や蛋白質、酒類の摂取も減少していた。外出機会や活動量の減少は、高齢者においては筋肉量の減少につながり、体重減少をもたらしていたことが明らかとなった。このことは、生活の不活発化により食事量の減少、筋肉量の低下がもたらされ、フレイルのリスクが高くなることを示している。

(6) 認知症のリスク

コロナ禍の下で、高齢者は感染・重症化への危機感が高く、同居家族以外との交流や、社会参加が減少した。このような交流頻度の少ない高齢者では、全脳萎縮、海馬萎縮が生じやすいという研究結果もあり、高齢者の閉じこもり防止や社会参加は認知症の予防においても大変重要である。アンケート結果でも高齢者に不安感や孤独感・孤立感が多く表れていたが、このことは生活上の意欲低下にもつながりかねない。認知症未病状態にある高齢者に認知症予防のための生活介入の機会を提供することが重要である。

(7) 自宅での看取り

2019年のアンケートでは、6割の回答者が「最期まで自宅で過ごしたい」と回答する一方、7割は「実際には無理・不可能」とも回答していた。単身・高齢者のみ世帯の多さや看取りに関する家族の負担を考えると自宅で最期を迎えるという選択は非現実的なものであった。しかしコロナ禍において、医療や介護施設での受け入れ態勢の弱体化したことや、面会が制限されたこと等を背景に、羽咋市では自宅での看取りが現実的な選択肢となる状況も窺われた。今後は住民に対する看取りに関するリテラシー向上の講座や専門職に対する研修等により、自宅での看取りに向けた条件整備が求められる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 武田公子	4. 巻 43(1)
2. 論文標題 コロナ禍による高齢者の生活変容と健康への影響 アンケートと後期高齢者医療・介護保険データから	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 経済論集	6. 最初と最後の頁 63-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24517/00069137	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 武田公子	4. 巻 43(2)
2. 論文標題 総合事業の導入が自治体の介護保険事業・財政にもたらした変化	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 経済論集	6. 最初と最後の頁 49-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24517/00069144	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yuan Yuan, Chunhua Tao, Ping Yu, Yanwei Wang, Akio Kitayama, En Takashi, Kiyoko Yanagihara	4. 巻 10:990295
2. 論文標題 Demand analysis of telenursing among empty-nest elderly individuals with chronic diseases based on the Kano model	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Public Health	6. 最初と最後の頁 1月10日
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpubh.2022.990295	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子, 小山桜利奈, 熊谷理恵,	4. 巻 25
2. 論文標題 クリティカルケア領域において代理意思決定を行う家族の体験と家族支援の相互関連モデル～メタスタディ法を用いて～	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 家族看護学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Noguchi-Shinohara M, Ono K, Yuki-Nozaki S, Iwasa K, Yokogawa M, Komai K, Thyreau B, Tatewaki Y, Taki Y, Shibata M, Ohara T, Hata J, Ninomiya T, Yamada M.	4. 巻 12
2. 論文標題 Association of the prefrailty with global brain atrophy and white matter lesions among cognitively unimpaired older adults: the Nakajima study.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sci Rep	6. 最初と最後の頁 121-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Noguchi-Shinohara M, Yuki-Nozaki S, Abe C, Mori A, Horimoto M, Yokogawa M, Ishida N, Suga Y, Ishizaki J, Ishimiya M, Nakamura H, Komai K, Nakamura H, Shibata M, Ohara T, Hata J, Ninomiya T, Yamada M; Japan Prospective Studies Collaboration for Aging and Dementia (JPSC-AD) study group.	4. 巻 85
2. 論文標題 Diabetes Mellitus, Elevated Hemoglobin A1c, and Glycated Albumin Are Associated with the Presence of All-Cause Dementia and Alzheimer's Disease: The JPSC-AD Study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 J Alzheimer's dis	6. 最初と最後の頁 235-247
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Noguchi-Shinohara M, Hamaguchi T, Sakai K, Komatsu J, Iwasa K, Horimoto M, Nakamura H, Yamada M, Ono K.	4. 巻 91
2. 論文標題 Effects of Melissa officinalis extract containing rosmarinic acid on cognition in older adults without dementia: a randomized controlled trial.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 J Alzheimer's dis	6. 最初と最後の頁 1173-1183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板谷智也	4. 巻 17
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症の影響による生活行動の変化と経済に関する研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 実践と研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板谷智也, 佐無田光, 柳原清子	4. 巻 24(2)
2. 論文標題 高齢化が進む石川県羽咋市における「看取り」の意識に関する研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 57-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板谷智也, 池内里美, 戸上央, 柳原清子	4. 巻 25(1)
2. 論文標題 住民と専門職の一体的活動による健やかな看取り環境創造モデル: 石川県羽咋市での取り組み	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 68-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸上央, 板谷智也	4. 巻 24(1)
2. 論文標題 地域住民が集まる場への参加意欲に関する研究: 介護予防・日常生活支援総合事業への参加者を増やすには	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 54-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 久仁子, 塚崎 恵子, 京田 薫, 板谷 智也, 遠田 大輔, 中井 寿雄	4. 巻 45
2. 論文標題 日本のケアマネジャーにおける認知症の行動・心理症状のケアマネジメントに影響を与える要因	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of wellness and health care = Journal of wellness and health care	6. 最初と最後の頁 47~57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24517/00065213	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsukasaki Keiko, Kyota Kaoru, Itatani Tomoya	4. 巻 16
2. 論文標題 Development and Validation of an Interprofessional Collaboration Scale for Home Health Care for the Frail Elderly	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Asian Nursing Research	6. 最初と最後の頁 106 ~ 113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.anr.2022.03.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平子紘平、板谷智也、原田魁成、佐無田光	4. 巻 18
2. 論文標題 行政・地域データの横断的連結モデルによる多角的分析とEBPMへの活用 ~石川県羽咋市での健康増進分野を事例に~	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 地域活性研究	6. 最初と最後の頁 51 ~ 60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田公子	4. 巻 42(2)
2. 論文標題 大都市における新型コロナ対策と財政状況 2020年度決算から2021年度上半期補正予算まで	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経済論集	6. 最初と最後の頁 121-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24517/00064688	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 武田公子	4. 巻 42(1)
2. 論文標題 高齢者の『観察健康月数』に影響を及ぼす諸要因について 後期高齢者医療・介護保険レセプトデータの連結による分析例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経済論集	6. 最初と最後の頁 105-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子, 澤田紀子	4. 巻 16(1)
2. 論文標題 面会制限の倫理的葛藤からひも解く解決法としての家族の文脈的理解	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Nursing BUSINESS	6. 最初と最後の頁 34-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子	4. 巻 28(5)
2. 論文標題 【withコロナ時代の面会と家族ケア】コロナ禍の高齢者と家族 "引き裂かれ"と"凝集"の中での家族の葛藤	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床老年看護	6. 最初と最後の頁 60-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板谷 智也, 戸上 央, 佐無田 光, 柳原 清子, 中井 寿雄, 加藤 穰	4. 巻 24(5)
2. 論文標題 高齢化が進む石川県羽咋市における「看取り」の意識に関する研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 57-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishida N, Tokumoto Y, Suga Y, Noguchi-Shinohara M, Abe C, Yuki-Nozaki S, Mori A, Horimoto M, Hayashi K, Iwasa K, Yokogawa M, Ishimiya M, Nakamura H, Komai K, Matsushita R, Ishizaki J, Yamada M.	4. 巻 141
2. 論文標題 Factors associated with self-reported medication adherence in Japanese community-dwelling elderly individuals: The Nakajima Study.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 YAKUGAKU ZASSHI	6. 最初と最後の頁 751-759
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 武田公子
2. 発表標題 コロナ禍による高齢者の生活変化が医療・介護に及ぼす影響 後期高齢者医療・介護保険のパネルデータによる分析例
3. 学会等名 日本地方財政学会第30回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柚木 颯俣, 篠原 もえ子, 堀本 真以, 丹羽 こず絵, 森 彩香, 北 真実, 柴田修太郎, 小野 賢二郎
2. 発表標題 運転技能に必要な認知機能に関する予備的研究：性差の検討
3. 学会等名 第11回日本認知症予防学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 横川 正美, 篠原 もえ子, 柚木 颯俣, 堀本 真以, 森 彩香, 羽瀨 風雅, 石田 奈津子, 菅 幸生, 石崎 純子, 石宮 舞, 中村 博幸, 駒井 清暢, 山田正仁, 小野賢二郎
2. 発表標題 地域高齢者の身体活動と認知機能検査、歩行速度との関連：なかじまプロジェクト研究
3. 学会等名 第41回日本認知症学会学術集会 / 第37回日本老年精神医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柚木颯俣, 篠原もえ子, 堀本真以, 森彩香, 横川正美, 石田奈津子, 菅幸生, 石崎純子, 石宮舞, 中村博幸, 駒井清暢, 山田正仁, 小野賢二郎
2. 発表標題 他者との交流頻度が主観的認知障害に及ぼす影響：なかじまプロジェクト研究
3. 学会等名 第41回日本認知症学会学術集会 / 第37回日本老年精神医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 板谷智也
2. 発表標題 より精密に、より個別化され、真にWell-Beingな世界へ
3. 学会等名 Healthtech/Sum
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Itatani,TOMOYA
2. 発表標題 Administrative data linking method for multi-dimensional analysis and visualization
3. 学会等名 マルチクライアント・ビッグデータを活用した 高齢・過疎社会でのレジリエントな地域デザイン」 国際セミナー（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀本真以、篠原もえ子、柚木颯憐、阿部智絵美、森彩香、北 真実、横川正美、羽瀧風雅、石田奈津子、菅幸生、石崎純子、石宮舞、中村博幸、駒井清暢、山田正仁
2. 発表標題 COVID-19拡大下の高齢者のこころと活動の変化：なかじまプロジェクト研究。
3. 学会等名 第40回日本認知症学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柚木颯憐、篠原もえ子、阿部智絵美、堀本真以、森彩香、岩佐和夫、駒井清暢、山田正仁、小野賢二郎
2. 発表標題 地域高齢者における社会的孤立と主観的認知障害との関連：なかじまプロジェクト研究
3. 学会等名 第40回日本認知症学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森彩香、篠原もえ子、柚木颯穂、阿部智絵美、堀本真以、岩佐和夫、駒井清暢、山田正仁、小野賢二郎
2. 発表標題 社会ネットワークと認知機能との関連：なかじまプロジェクト研究
3. 学会等名 第40回日本認知症学会学術集会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	平子 紘平 (Hirako Ryouhei) (10562621)	金城大学・その他・准教授 (33306)	
研究分担者	板谷 智也 (Itatani Tomoya) (10765192)	宮崎大学・医学部・教授 (17601)	
研究分担者	篠原 もえ子 (Shinohara Moeko) (20584832)	金沢大学・医学系・准教授 (13301)	
研究分担者	柳原 清子 (Yanagihara Kiyoko) (70269455)	長野県看護大学・看護学部・教授 (23601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------